

企画政策課長の藤田でございます。

私からは、道の駅に関して、担当課としてのイメージや、今後のこの創生会議での議論の方向性についてお話をさせていただきます。

皆さんもご承知おきのこととは思いますが、北海道の道の駅のスタンプラリーの参加者は、データが古くて申し訳ありませんが、2017年度が、40,196人でそのうち完走者、全駅をまわった人が2,676人でした。

このデータは2014年度のデータと比較すると2割増ということとなっています。

年々、北海道内の道の駅のスタンプラリー帳を購入して、道内の道の駅をまわろうとしている人が増えていて、道の駅と謳うだけで、最低でも年間3千人弱の方が訪れることとなります。

私もここ2年間、道内のすべての道の駅をまわっています。

最近、感じることは、

- ・ キャンピングカーが随分増えたということ。
- ・ 道の駅で、車中泊をする人が増えていること。
- ・ 道の駅での宿泊は、旅行だけではなく、大型の長距離トラックも沢山、宿泊していることなどです。

利用の多い道の駅とは、どのような道の駅でしょうか。

スタンプラリー帳では、「トイレがきれいと感じた道の駅」、「景色がきれいだと感じる道の駅」、「地域や観光の情報提供が充実している道の駅」、「道路や天気の情報提供が充実していたと感じる道の駅」、「ゆっくりと休憩ができたと感じた道の駅」、これらがそれぞれランキングされています。

当然、これらの情報を見て、道の駅を訪れ、期待をしながら回ります。

道の駅を整備するには、これらのランキングを意識した整備が必要と思います。

そのほかに、道の駅に求める機能としては、

「◎おいしいものを食べることができる。」ではないでしょうか。

例えば、おいしい焼き鳥、近くでは、滝川の道の駅などには、よく買いに行きます。

- ・ おいしい、ソフトクリーム。  
阿寒のパプリカのソフトクリームや室蘭のうずらの卵のソフトクリーム。
- ・ おいしいピザ。(黒松内や千歳)
- ・ おいしいパン。(浜頓別、黒松内)

牡蠣を食べに厚岸に、布袋のザンギを食べに千歳へ、と言ったように、おいしいものを食べることを目的に道の駅に行くというようなことが考えられます。

おいしいものが食べられると、年に何度もおいしいものを食べにその道の駅に行くことにつながります。

おいしいものが食べられると、近隣の町からもおいしいもの目当てに訪れます。当然、地元の人たちの利用も増えると思います。

道の駅の機能としては、かなり重要なコンテンツであると考えています。

後は、特産品を目当てに道の駅に行くということがあります。

特に、ご当地のお店の事情がよくわからない観光客は、「道の駅に行くとなにかがあるのでは。」と考える観光客も沢山いると思います。

先ほども言いましたが、道の駅のランキングでは、景色がきれいと感じるという項目があります。

このところは、幌延町内にも、景色がきれいな場所はたくさんありますが、そこに道の駅を建設したときの利便性と集客力を検証する必要があると思います。

例を少し提示いたしますと、知駒岳にテレビ塔がありますが、そこには、自家用車でいけますが、あそこは、日本海とオホーツク海が両方見ることができます。とてもきれいな景色ですが、そこに、展望レストランがあれば、ある程度の集客は望めるでしょうが、地元の住民の利用は望めません。

あとは、パンケ沼から見る利尻富士や風車群の景色は素晴らしいとか、サロベツ原野の景色がすばらしいとか、いろいろあります。

道の駅を整備するときには、どこを売りにするのか、地元への効果や利用者のニーズをどのように捉えるかにより、整備する場所の選択が変わってきます。

考え方としては、例えば、駅前に道の駅を整備とした場合、道の駅に泊まってもらえば、駅の近くの飲食店で食事や、もしかすると、ビール一杯でも飲むかもしれません。

私が、道の駅に泊まるときは、自動車を止めて、近くでお酒を飲むために、市街地で、おいしい居酒屋さんが近くにある場所を選びます。

道の駅で「お風呂」に入れるというのも、宿泊地を選択する理由になります。

例えば、新篠津の道の駅ですが、場所的に、あそこは道の駅でお風呂が入れて、近くで食事もできることから、何度か泊ったことがあります。けっこう、宿泊者がいたと思います。

幌延町の事情ですが、現在、老人福祉センターに公衆浴場がありますが、耐震化の問題があり、建て替えが必要な施設となっています。

道の駅にお風呂を整備することとなると、町民も利用しやすい場所を選択しなくてはならないと思います。

このように、道の駅にどのようなコンテンツを整備するかによって、場所の選定が変わってきます。

そこで、当課では、駅前と駅裏を一体的に整備してはどうかと考えます。

これは、JR 北海道との協議が必要となりますが、駅前は JR 利用者が利用する建物とし、エレベーター等で2階へあがり、駅裏まで行ける通路を整備し、駅裏に道の駅を整備し、そこには、お風呂やコインランドリー、コンビニ、特産品や飲食できるコーナーを設けてはどうかと考えました。

お風呂には、休憩できる大広間があり、仮眠もできます。

飲食コーナーでは、主に、パンやピザ、ソフトクリーム、持ち帰りができるお弁当のようなもの。例えば、厚田の道の駅で売っている、ニシンのバッテラ寿司のようなもの

があればよいのではないかと考えました。

しっかりと食事を取りたい人は、駅前の地元飲食店で食事やビールなどのアルコール類などを取ってもらうことにより、道の駅で提供するものは、そことバッティングしないような軽食提供にとどめ、差別化できるようにすればよいのではないかと考えました。

お風呂のほかに、シャワーのみの利用も可能な場所も設けると、一層、利用者が増えるのではないかと考えました。

コインランドリーですが、私、以前に道南の道の駅で泊まった時に、となりに九州からキャンピングカーでやってきたご夫婦とお話したとき、「北海道の道の駅には、コインランドリーないものね、九州はあるよ。だから、洗濯に困るんだよね。」というお話を伺いました。

コインランドリーも道の駅で泊まってもらえるコンテンツなんだなあと教えられました。幌延町には、コインランドリーがありませんから、コインランドリーができれば、町民も利用するようになるのではないかと思います。

特産品販売ですが、地元の特産品はもちろんですが、例えば、宗谷管内や近隣の町村のものを取り寄せ、なるべくたくさんの商品を扱うことが大切であると考えます。物販は選ぶ時間が短くては、売上につながりません。いろんなところを訪れますが、商品が少ないとすぐにお店を出ます。

私たちは、旅行するときに、そこに来た証として、お土産を買います。選ぶものが少ないとなぜか、選ばず、ほかのお店にいきませんか。

私はそのように考えます。

品数は売り上げを考えるうえでとても大切な要因であると考えています。

いま、お話したことは、当課で話し合っただけで考えた道の駅での必要な条件ですが、今後数回の創生会議で、道の駅整備に関して皆さんからたくさんのご意見を伺い、それらを皆さんで検証していただき、「道の駅整備に関する創生会議の意見」として町長へ提案していこうと考えています。

来年度予算では、道内でも利用の多く、幌延町のような条件でも利用客の多い黒松内や赤井川の道の駅の視察を検討しています。

皆さんのお知恵を拝借し、

- ・利用の多い道の駅になるためのコンテンツは何か。
- ・いろいろなニーズに対応できる場所がどこなのか。
- ・場所とコンテンツが揃ったところで、幌延町での道の駅の事業が成立するのかなどを今後、この会議で決めていきたいと考えています。

皆さんの前向きな議論をお願いいたします。